

会報

第 303 号

岩手県小学校長会  
代表 外山 敏  
事務局 TEL 019 (623) 8955  
盛岡市紺屋町2の9  
盛岡市勤労福祉会館2F  
印刷 富士屋印刷所

第五十八回東北連合小学校長会研究協議会  
青森大会 八戸市にて開催

第五十八回東北連合小学校長会研究協議会青森大会が、七月五日（木）六日（金）の二日間、青森県八戸市の八戸市公会堂を主会場に市内三会場で行われた。東北六県から一〇八五名の小学校長が参加、岩手県からは一六三名が参加した。



中谷保美 東北連小会長の挨拶

開会行事で、中谷保美東北連合小学校長会会長は、現在の教育諸課題への対応と大会主題の趣旨に触れ「先を見通すことが困難な変化の激しい時代を生きる子どもたちのために、郷土への愛着と誇り、自分自身への自信と誇りをもたせ、共に支え合おうとする意識や地域社会に貢献しようとする意識を醸成する教育が大切である。「東北は一つ」を合い言葉に、本協議会の成果を各県に持ち帰っていただける大会にしたい。」と語った。

開会行事の後には、「未来

をつくる子どもたちにもふるさと・ひと・まち」と題して、地域おこしと人づくりをテーマにしたシンポジウムが行われた。三名のシンポジストからは、地域の観光や物産をブランド化する取組や市の中心街に横丁を設立し人材育成をしながら街の活性化を図る取組、親と子が文化体験を通して共に育つことを目的にした子育てサークルの活動等が紹介された。「地域と一体となつて郷土への思いや誇り



八戸市「ふるさと・ひと・まち」をテーマに語られたシンポジウム

を育んでいこう」という学校への強いメッセージとなった。

二日目は、十の分科会で熱心な研究協議が行われた。参加した会員より報告をいただいたので紹介する。

第一分科会(経営組織運営)

目指す学校づくりと組織・運営の活性化

岩手町立川口小学校

大村 格

視点一は、「学校の課題を明確にした学校経営の推進」として、山形県山形市校長会から学校経営の推進を担う次代のスクールリーダーを育てるための取組が発表された。

山形市校長会が共催しての教務主任研を年二回行っていることや週一回は主任との話し合いを行っていることが報告された。各県とも大量採用時代に入っており、どう学校運営のノウハウを継承するかが共通課題となっている。若手とベテランを組ませ、若手に主任経験を早くから積ませ

ている他県の取組が大変参考になった。

視点二は、「教職員の参画意識を高揚する活力ある組織・運営」として、青森県南部町校長会から参画意識を高める校長の役割が発表された。

アンケート結果から、教頭の参画意識が高まったのは、仕事を任せられた時、主任は日常的な指導助言を受けた時という結果であった。参画意識を高めるために、人事評価の話し合いの場を活用し、進むべき方向性や見通しをもたせることが大切であることが報告された。他県からは児童の変容を見取り、教員を承認することや人事配置の工夫が効果的であることが紹介された。

学校経営推進のための校長の役割は、人材育成と参画意識の高揚である。多くの具体的な事例を学ぶことができた分科会であった。



## 第二分科会(評価・改善)

### 教育活動の活性化を図る学校評価と学校運営の改善

矢巾町立不動小学校

小野 佳保

視点一は「教育の質の向上をめざした学校評価・運営の構築」として、紫波町立赤石小学校妻田篤校長より、「学校評価に基づく教育活動の改善に向けた校長の在り方」という研究主題で、岩手県紫波地区小学校長会の実践が発表された。「経営方針の策定と具現化の進め方及び学校評価の内容や実施方法の改善」

「教職員の意識を高める取組」「保護者、地域との関わりによる教育活動の取組」の三点の発表を受けてのグループ協議では、経営ビジョンの改善につながる学校評価の在り方や教職員の参画を図る手立て等について活発に交流が深められた。

視点二は「学校の活力を高める学校評価と学校運営の改善」として青森県青森市小学校長会より「学校評価・教職

員評価を教育活動の活性化につなげる取組と校長の役割」という研究主題で「教職員の学校経営参画意識を高める工夫と校長の役割」「学校評価・教職員評価を教職員の意欲の向上や教育活動の活発化につなげる工夫と校長の役割」について実践的な提言があった。評価標準の客観化や組織の一員としての役割と責任など活性化に反映させるための校長の役割の重要性が確認された。

学校教育の充実・活性化を図る評価・改善について、その推進に必要なことを学ぶことができた分科会となった。

## 第三分科会(知性・創造性)

### 知性・創造性を育む教育課程

花巻市立湯本小学校

片野 正喜

視点一では、花巻市立大迫小学校佐藤勤校長から「カリキュラム・マネジメントの手法を用いた教育課程の編成を通して」との研究主題で、花巻市小学校長会の実践が発表

された。カリキュラム・マネジメントの理論研究と、分析シートによる教育活動の強み弱みの分析・考察により、教育課程のとらえ直しが効果的に行われ、新たな教育課程を、全体構造を見据えて編成することができたことが紹介された。研究協議では、教育課程の編成と運用に際し、教職員の参画意識を醸成する手立てについて意見交換が行われ、各年代層の意識の課題と、それを解決するための面談の重要性と在り方、主任層へのアシスト等が話題となった。

視点二では、青森県七戸町立伝馬西小学校川村拓己校長から「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」「校長の役割と指導性」をテーマに、青森県上北地方小学校長会、西地区小学校長会の研究が発表された。新学習指導要領の示す知性と創造性を解釈するためのユニークなキーワード分析に始まり、多彩な項目によるアンケートの結果分析から、校

長としての取組のポイントを、具体的かつ明解に提言するものであった。校長として、今回の改定の趣旨をより積極的に受け入れていく必要性と、新たなビジョンによる教員の意識変革が求められていることが確認された。

## 第四分科会(豊かな人間性)

### 豊かな人間関係を育む教育課程

陸前高田市立小友小学校

寺澤 貴裕

視点一「他と共に、よりよく生きるための人権感覚の育成」の研究協議の柱は、「人権教育や道徳教育を組織的・計画的・継続的に推進するための基盤づくりを進める際の校長の役割と指導性はどうあるべきか」であった。まず

言や外部との関わりを行いながら進めていく。以上のような協議が行われた。

視点二「豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善」の研究協議の柱は、「よりよい人間関係を築く教育活動の展開、そのための校長の在り方・役割」であった。児童同士による絆づくり・教師による児童の居場所づくりを行うために、まずは実態に基づいたビジョンを示す。次にどんな子に育てたいか明確にしながら課題解決にあたる。最後に、地域で育てる。以上のような協議が行われた。

両視点の協議を通じて明らかになったこととして、大事なものであるが意外に考えられていないのが「全体構想」であることがあげられた。意図やシステムを見える化し、キャラクターづくり等により教育目標を身近にする工夫も有効であると感じた。



## 第五分科会(健やかな体)

未来に夢を描き生きる力を育てる健康教育・環境教育

九戸村立伊保内小学校

藤村 健一

視点一では、「心身の健やかな成長を目指す教育課程の編成・評価・改善」として、秋田県横手市小学校長会から、「未来を生きる力を育てる健康教育の推進と校長の在り方」についての発表があった。電子メディア等との上手なつき合い方について、市全体で取り組んでいる「アウトメディアチャレンジデー」を拡充し、地域や家庭との連携を進めた結果、成果として表れてきた実践が紹介された。グループ協議では、保護者を巻き込みながら、情報メディアの上手な使い手を育てるため校長がリーダーシップを発揮することの重要性が確認された。

視点二では、「体験を通して実践的な態度を育む教育課程の編成・評価・改善」として、青森県三戸郡小学校長会

から、「学校や地域の特性に応じた環境教育推進に向けた校長の取組」についての発表があった。ともすれば意識が

低くなりがちな環境教育について、県が主催する「小学生雑誌回収チャレンジ事業」に郡で統一参加することによって、児童の意識を高めようとする実践が紹介された。グループ協議から、教育課程の中で環境教育に上手に光を当てて、継続して取り組むことができるよう校長がマネジメントすることが大切であると感じた。グループ協議を通じた他県校長との情報交換は非常に有意義であった。

## 第六分科会(研究・研修)

学校の教育力を高める研究・研修

洋野町立帯島小学校

藤田 知也

視点一「実践的な指導力を高める校内研修体制の推進」では、宮城県大河南地区小学校長会が実践を発表した。豊

かな学びと体験を創出する学校組織を形成するため、校長として具体的な方策をアンケートとインタビューから明らかにしようとする試みであった。アンケートから、本

地区の校長が重視しているのは教師の「授業力」であり、それを向上させるために、定期的な授業参観、授業について相談できる体制の確立、各種研修会等への参加促進などが取組としてあげられた。その後のグループ協議では、授業力だけに絞り込むことに異論が出され、生徒指導力、特別支援教育力をバランスよく統合する「担能力」という考えをもとに、その向上を求めることが必要との意見が出された。

視点二「将来への夢や展望、参画意識をもたせる研修の推進と職員の育成」では、青森県下北地区小学校長会が実践を発表した。職員にキャリアステージを意識した展望と学校経営への参画意識をもたせるために、校長として、「下北の教員に求められる資

質・能力」をまとめ、実践を積み重ねてきた。課題として「五十代ベテラ

ン層のモチベーション維持」があげられ、メンターとしての役割をもたせ、人材育成への参画意識をもたせることが大切であるとまとめられた。

## 第七分科会「学校安全」

安全・安心な学ぶ環境づくり

岩泉町立大川小学校

及川 一也

視点一については、宮城県加美町立旭小学校林恵美子校長から「自ら判断し行動できる子どもを育てる安全・防災教育の推進と校長の在り方」と題して宮城県北部地区の取組が発表された。

判断力を育てることを目的に、訓練場所や時間帯を多様化させた避難訓練、児童自身に判断を求める場面を設定した避難訓練、警察や自動車学校と連携し、より現実的な場面設定をした交通安全指導など、様々な取組が紹介された。

視点二については、青森県つがる市立稲垣小学校三上高

弘校長から「家庭や地域等と連携した安全教育推進における校長の在り方」と題して青森県西つがる校長会の取組が発表された。

アンケート等から明らかになった「地域との連携が十分」という課題に対処すべく、市P連と連携して実施された挨拶運動、職員に課題を共通理解させることで意識の高揚を図る取組等、様々な取組が紹介された。

グループ協議では、より実効的、実践的な避難訓練への見直しの在り方や地域連携を推進する中で生じる新たな課題への対応について、積極的な協議がなされた。安全・安心な学校づくりのために校長として何をなすべきかということを問直す機会として実に有意義な研修であった。



## 第八分科会(危機対応)

### 防災教育や自然災害への対応

一関市立新沼小学校

佐藤 紹 栄

視点一「自然災害の特性を理解し、自ら判断し行動できる防災教育の推進」として、福島県校長会石川支会が「自ら危険を予測し、自らの命を守る子どもを育てる防災教育の推進と校長の在り方」の実践を発表された。自校の防災教育に係る現状と課題をとらえ、教育課程、教育計画の改善につなげるための校長としてのリーダーシップの在り方を探るとともに、児童に育みたい力を明確にした見直しをもった防災教育の実践として、福島県版指導資料を共有、活用した実践等が紹介された。

視点二「学校単独の取組や他校種、地域との連携した防災対応の推進」として、青森県弘前地区校長会が、「危機管理能力の向上と計画的・組織的な防災体制の構築における校長の役割」他校種や地

域、家庭と連携・協働した防災対応の推進」の実践を発表された。地域と連携した組織の見直しや再編、新たな活動のねらいの設定、専門家を招聘しての研修や総合防災訓練等、地域や保護者と協力、連携した活動が紹介された。

研究協議では、自分の命を自分で守る意識を高め、想定される災害に対応するための、主体的な学びとなる防災教育になっているかを総点検し、実践する必要性と、想定される災害へ、県や市町村、地域での関係機関と積極的に連携することの重要性が話された。

## 第九分科会「自立と社会性」

### 自立と社会参加を図る教育の推進

奥州市立梁川小学校

梅 木 康 行

視点一「自立と社会参加を図る特別支援教育の推進」では、秋田県男鹿潟上南秋校長会の実践が発表された。研究内容は、通常学級に在籍する

児童の個別の指導・支援計画の形式や評価時期、結果の共有に関する点、特別支援教育推進に関わる実態調査とその結果に基づく校内支援体制の充実に関する点の二点であった。通常学級に在籍する配慮を要する児童の個別の指導計画を各校・各中学校区で改善したこと、校長・校長会

としての役割を明確化したことが成果としてあげられた。

視点二「未来への夢や志を育むキャリア教育の推進」では、青森県北五小学校長会の実践が発表された。キャリア教育推進に関する意識調査の結果に基づき提言を作成、各校で提言に基づいた実践が行われ、その紹介が行われた。校長は、自校の現状に敏感であり、望ましい推進のために必要なことを具体化するリーダーシップが必要であることが確認された。

グループ協議では、各県各校の実践が交流された。特別支援教育推進には、支援員等人的配置に関わる校長の役割が大切であること、キャリア

教育推進では、「視点」のもたせ方等校長の役割が重要であることを確認し合った。大変有意義な協議であった。

## 第十分科会(連携・接続)

### 家庭・地域・異校種等との連携・接続の推進

盛岡市立北厨川小学校

川 上 良 治

視点一「家庭・地域と連携し、地域に貢献させる学校づくり」では、山形県西村山小学校長会から「地域と共にある学校づくり校長の役割」という研究主題で実践発表があった。地域の資源・人材を見直し、今までの活動に新たな価値を見出し、子ども自らが地域のよさを発信する仕組み作りが紹介された。学校統合に伴い各地域の文化・伝統を整理しなければならぬ校長の決断や地域の苦悩を理解しながら相互理解を図り、教育活動と地域コミュニティが共に活性化する方策を探った貴重な実践発表であった。

視点二「幼保・小・中との

連携と円滑な接続のための組織的な取組の推進」では、青森県南地方校長会が「次世代を担う子どもたちの健やかな成長を願って」を主題に実践発表を行った。南地方二十三小学校にアンケート調査を行い、連携推進の担当・組織づくりと連携のための時間確保が課題として浮き彫りになり、その改善に向けての実践してきた。グループ協議では、小中連携は概ね定着し成果を上げているが、幼保・小との連携に課題が多く話題となった。その改善に向けて町村では教育委員会が中心となり一斉研修日を設けていることが紹介された。また、大規模校では期間を定め幼保の先生方との交流を積極的に進めている例などが紹介され有意義な分科会となった。



# 地区校長会研究交流

## 確かな学力と豊かな心もち、力強く 未来を生きぬく子どもを育てる学校経営

### 胆江地区校長会

#### 一 はじめに

胆江地区は、奥羽山脈から北上山系まで、特に東西に大きく広がっています。平成十八年に新設合併した奥州市と金ケ崎町を併せて小学校三十二校、中学校十一校、合計四十三校です。平成二十九年に開校した胆沢中をはじめ、前沢中、金ケ崎中といった(旧)町に一つの中学校という広い中学校区になっている場合が多く、小中連携も一層重視しています。胆江地区校長会小学校部会は、水沢・江刺・前沢と衣川・胆沢・金ケ崎地域の事務局を起点に、円滑な部会運営を行っています。

#### 二 研修計画の概要

##### 【研究推進方針】

三つの方針で研修に取り組んでいます。

① 学校経営研究会を通して学校経営及び課題解決事例を学ぶ。

② 岩手県小・中学校長会研究主題に即して研究を深める。

③ 県外研修視察及び関係研究会大会への積極的参加。

##### 【研究部会構成】

小学校は三部会、中学校は一部会構成で研究を推進しています。

##### ◆二班(十一校)

水沢南小、真城小、岩谷堂小、大田代小、人首小、梁川小、衣川小、衣里小、胆沢第一小、三ヶ尻小、西小

##### ◆二班(十校)

常盤小、佐倉河小、姉体小、江刺愛宕小、藤里小、広瀬小、木細工小、胆沢愛宕小、前沢小、第一小

##### ◆三班(十一校)

水沢小、羽田小、黒石小、田原小、伊手小、玉里小、稲瀬小、南都田小、若柳小、金ケ崎小、永岡小

##### 【研修推進日程】

① 班別研修会

・四月十日・六月四日  
・九月五日・十一月七日  
② 学校経営研究会  
・六月四日  
江刺南中学校区会場  
(藤里小、伊手小)  
・九月五日  
金ケ崎中学校区会場  
(金ケ崎小、第一小)

③ 県外視察研修

・十一月二十二日  
・二十三日  
福島県方面(調整中)

④ 地区校長会研究発表会

・一月三十一日  
水沢地区センター

#### 三 研究内容の概要

##### ◆二班(三十二年度県発表)

※四年度・二年度目  
「子どもの内面性に根ざす豊かな心を育む道徳教育の推進と校長の在り方」

道徳教育の推進とその充実を図るための校長の在り方を実践的に追究する。そのために家庭や地域との連携を図り、子どもの内面に根ざす豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善に取り組む。本年度は「県学習定着度調査質問紙」「道徳の内容項目に係る職員の意識調査」「学校評価」の結果を指標としながら各校の実践・交流を継続中。

##### ◆二班(三十年年度県発表)

※二年度・二年度目  
「学校の教育力を向上させる研究・研修の推進と校長の在り方」  
教員一人一人にキャリアステージを意識した展望と学校経営への参画意識をもたせる研修を推進するために、校長の果たすべき役割と指導性を究明する。教員の力量の構成要素「基本姿勢」「授業力」「マネジメント力」に係るアンケート調査を実施し、Q-Uテストの集計表をもとにした意識分布図を作成した。この意識分布状況に応じた校長の働きかけ(実践)により教員個々が自らを見つめ直し、研修に向かおうとする姿勢を醸成することができた。

##### ◆三班(三十年年度県発表)

※三年度・三年度目  
「命を守る安全・防災教育の推進」  
防災教育の取り組みを通して、学校経営ビジョンの策定やその具体化・推進を図るための校長の役割や指導性について究明する。PDCAの視点を共有するために「防災教育に係る学校経営状況チェックシート」を作成し、各校の防災教育の取組を評価・確認してきた。そうすることで各校の課題が整理され、校長の働きかけ方の明確化や職員の高揚を図ることができた。

#### 四 おわりに

学習指導要領改訂、働き方改革、多様化する危機管理対策、特別支援対応など課題は山積ですが、今後も会員一同協働して研修を推進していきたいと考えております。  
(奥州市立南都田小学校  
本田 岳雄)

決に向けて、豊かな心を育む

**被災地交流で  
何を育てるか**

昨年度の四月に、盛岡市立青山小学校に赴任しました。青山小学校は、内陸盛岡市の北西に位置し、直接的な被害はなかったものの、避難所として地域住民を受け入れるとともに、内陸で唯一校舎に大きな被害を受けた厨川中学校と隣接しており、厨川中学校二学年生徒を一時受け入れ共に過ごした学校でもありません。

校長室前廊下には、山田町立山田南小学校との交流の様子の写真が掲示されており、各学年前の廊下には、山田南小学校の各学年からのお便りや学習活動の紹介が掲示されています。

日常生活からは、震災による被害の跡は感じられませんが、震災の記憶がない児童がほとんどになり、今年度ついに、震災後に生まれた一年生が入学しました。私自身、内陸部の小学校では震災に対する意識はどうなのだろうと思っていました。実際の子どもたちは、予想より被災地に関心をもち交流へも意欲的でした。これは、震災後から続く山田南小学校との交流活動によるものが大きいのです。

う。震災被害を知り被災地で生活する同じ小学生と直接話すことは、内陸で暮らす本校の児童に「遠くの出来事ではなく、自分たちと同じ小学生に起きていること」という思いをもたせるきっかけとなりました。

毎年、児童会では児童総会で「交流活動スローガン」を決め活動をスタートします。平成二十九年度のスローガンは、「つながろう心から」二校の絆を深めよう」でした。六月に山田南小学校の六年生が修学旅行の途中で来校し、歓迎の交流集会を全校児童で行いました。年に一度の直接交流では、両校の発表やゲーム等で楽しむだけでなく、山田南小学校から山田町の被災や復興の様子、子どもたちの活動を知ることができました。その後、六年生教室



山田南小との交流会

で一緒に給食を食べながら楽しい時間を過ごしました。また、児童会ではこの会に合わせて、毎月十一日に「つながり募金」という名前で山田南小学校への募金活動を行ってききました。その募金で集まったお金を、集会で手渡ししました。毎月続けることで、子どもたちの間に「十一日」への意識が根付いてきているように感じます。

**2011.3.11**  
**東日本大震災からの復興**  
**今日から明日へ 一歩ずつ**

---

**盛岡地区**

震災後七年を経て、沿岸部の状況も教育活動も変わってきています。昨年度末、七年間続いたこの交流の今後について、両校で話し合いました。その結果、直接会う交流集会は終了し、姉妹校として両校の可能な形で交流を続けることとしました。

青山小では、復興教育担当と児童会が話し合い、メッ

セージカードなどのお手紙と募金活動での交流を行うことになりました。

今年度の交流活動スローガンは、限られた中でお互いの心をつなげ、笑顔を広げたいと願い「広げよう笑顔 つなげよう心と心」としました。新たな交流として、校内の兄弟学年でメッセージカードを一緒に作り、山田南小学校へ送ることにしました。校内・校外の「つながり」作りを目指す、上学年が下学年に説明し手伝いながら作り、ファイナルにまとめました。送る前に校内に展示し、お互いのメッセージを見合ったり、保護者に取組を見ていただいたりしました。

募金活動は、学期ごと数日間に変えたため、金額的には減りましたが、児童会が呼びかけ、今年度も取り組んでい



給食での交流の様子



メッセージカードづくり

ます。集まったお金をどうするかは、今後児童会で話し合う予定ですが、「山田南小学校の六年生に記念の品を送りたい」という意見も出ています。子どもたちが自分たちの活動として、形にしていこうとを大切に進めています。またこの活動を通して、山田南小学校や被災地への理解と関心をもち続けさせたいと考えています。

被災地交流の在り方は、学校の数だけあると思います。学校を取り巻く状況も変化するか」と「何を育てるか」を問いつつ、避難訓練や教科等の指導と合わせて、「自他の命を守る子ども」の育成に努めていきたいと考えています。

(盛岡市立青山小学校  
校長 真壁 信義)

### 陸前高田の復興とともに

「この校庭、広すぎだ！」と声を上げたのは五年男子です。思わず出た言葉ですが、意味深いと感じました。

本校はこの二学期から校庭が使用可能になり、学校施設すべて通常通りとなりました。市内で校庭に仮設住宅のあった七校のうち二番目に復旧しました。残り五校も順次整うところです。

実際に校庭の整地が始まると、片隅にあったミニ校庭も使えなくなり、ほとんどが体育館での運動です。仮設校庭がありました。授業や行事での利用が中心で、休み時間には往復で時間が取られることから、足が向きにくかったようです。

不自由な二か月でしたが、生活が乱れることもなく、いつも通りの学校生活を送る子どもたちでした。



校庭の仮設住宅解体前



仮設住宅解体後・整地前

二期始業式の翌日、校庭開きを行いました。初めて足を踏み入れ、思わずほくそ笑む子どもたち。「足の感触はどうですか？」の問いに、

「紅白大玉転がしをし、校歌を歌い、お祝いにふさわしい内容になりました。引き続き昼休み時間に入り、鬼ごっこやサッカーをして駆け回っていました。」

その後、少年野球用のラインを引き、サッカーゴールを設置。ポールで窓ガラスを割る心配、校庭フェンス越えで取りに行く心配、花壇の花を折る心配を語りながら、普通の学校の話題になつてきた、と職員室にも笑顔が広がりました。

時を遡り、校庭整地までの流れを整理してみます。震災後五月に校庭に仮設住宅が設置されました。奥に

残ったスペースがミニ校庭、校舎前直線部分を五十メートル走路としました。それから六年後、校門坂より下に仮設校庭が整備されました。

仮設住宅の集約化が始まり、昨年九月末集約完了。今年一月から三月が解体作業、今年度に入り、六月から八月が整地作業でした。七年四月ぶりに校庭が使えるようになりました。

**2011.3.11**  
**東日本大震災からの復興**  
**今日から明日へ 一歩ずつ**  


---

**気仙地区**

本校は東日本大震災の年に、生出小・矢作小・下矢作小の三校が閉校し四月に新生矢作小学校として開校を迎えるというタイミングでした。閉校式は行えず、開校式を七月に行つたようです。校歌の作曲者太田代先生の手紙と作曲を依頼した当時の伊藤教育長さんの手紙が楽譜に添えられて校長室に掲げられています。

す。また、三月十一日を迎えるにあたって書いた子どもたちの自由作文のファイルもあります。中には、「避難の際に友達を置いて一人で走っていつてしまった。後悔している。今でも会うと手を振るけどあの日に振り返ってしま

う。」「おばあさんたちを逃げさせた区長さんは逃げおくれってしまったそうでも悲しかったです。お寺参りにた

くさんの方々が来たのを見て、人のために何かをするその後で自分にも良いことが帰ってくるかと教えてもらいました。」という記述や、「あの出来事を経験したから、私は強く生きていられると思う。将来人を助ける仕事をした

い。悲しんでいる人の背中を支えられる存在でありたい。」等、辛い経験をバネに復興を遂げたいと書いている子どもも多くありました。

高田松原再生に向けて、松



堤防から広田湾を望む

を育てたり、砂浜を作る実験をした

りして道の駅の柱に見えるものは、かさ上げのための土台であり、その上に建物

建つものであること等、様々な取組を覚えていただきました。自分も復興に携わる一人になりたいと感想を持つ児童もありました。

校長 佐藤 浜子

## 事務局日誌抄

- 4月20日 第56回岩手県小学校長会総会（盛岡市都南文化会館）  
第1回理事会・第1回評議員会合同会議（盛岡市都南公民館）  
各部担当理事・地区担当者・専門委員合同会議（総務部、行財政部、研修部、広報・編集部、生徒指導部）（都南公民館）
- 27日 岩手県中学校長会総会（サンセール盛岡）外山会長出席
- 5月9日 岩手県公立学校退職校長会定期総会（サンセール盛岡）外山会長出席
- 5月11日 岩手県公立小中学校事務職員研究協議会総会（盛岡市都南公民館）外山会長出席
- 18日 東北連小第1回理事会・研修会（青森市・ラプラス青い森）古玉副会長、佐藤部長、石亀書記出席  
岩手県退職公務員連盟第71回定期総会（岩手県公会堂）太田部長出席
- 5月22日 全連小第229回理事会（東京・KKRホテル東京）外山会長、佐藤部長出席
- 23日 全連小第70回総会（東京・ニッショーホール）外山会長、佐藤部長、大西校長（盛岡市立城南小）、佐々木校長（岩手町立沼宮内小）、玉山校長（花巻市立宮野目小）
- 26日 日本教育会岩手県支部定期総会（サンセール盛岡）外山会長、古玉副会長、佐藤部長出席
- 6月3日 （一社）岩手県PTA連合会定時社員総会（サンセール盛岡）古玉副会長出席
- 15日 第2回理事会（盛岡市勤労福祉会館）  
第1回東日本大震災対策特別委員会（盛岡市勤労福祉会館）
- 23日 日本教育会第44回総会・研究協議会（東京・ホテルジュラク）古玉副会長出席
- 25日 東日本大震災被災地視察訪問（大船渡市立赤崎小学校）佐藤部長、太田部長、仁昌寺部長
- 7月5日 東北連小第2回理事会（八戸市・八戸プラザホテル）外山会長、古玉副会長、佐藤部長
- 5～6日 第58回東北連小研究協議会青森大会（八戸市）参加者163名
- 9日 文部科学省・全連小役員懇談会（東京・東海大学校友会館）※豪雨災害のため急遽中止
- 10日 全連小小学校長会長連絡協議会（東京・KKRホテル東京）外山会長出席
- 17日 東日本大震災被災地視察訪問（釜石市立鶴住居小学校）外山会長、佐藤部長、久保部長
- 18日 東日本大震災被災地視察訪問（山田町立大沢小学校）外山会長、古玉副会長、佐藤部長、中村部長
- 26～27日 第23回NIE全国大会盛岡大会（盛岡市民文化ホール他）外山会長出席
- 8月22日 岩手県教育委員会との教育懇談会（サンセール盛岡）常任理事出席
- 31日 全連小・被災地視察（釜石地区）  
全連小・被災三県合同連絡協議会（ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING）
- 9月7日 現職・退職両校長会教育懇談会並びに懇親会（サンセール盛岡）常任理事出席
- 14日 第3回理事会（盛岡市勤労福祉会館）

## 編集後記

○八月三十一日、全連小から種村会長他役員三名、宮城県・福島県校長会の代表が来県し、全連小被災地視察として、震災後七年半が経過した釜石市及び鶴住居小学校を訪問しました。八月十九日にオーピングセレモニーが行われた釜石鶴住居復興スタジアムも間近に見ることができました。釜石地区校長会からは学校・児童・保護者・地域の現状を伝えていただきました。盛岡に移動しての懇談会では、岩手県・宮城県・福島県の被災三県の現状と課題が説明され、種村会長からは、状況を正確に受け止める、国の施策に反映されるよう全連小として文部科学省等にしつかりと伝えていきたいとの言葉をいただきました。小学校時報十月号に報告が掲載されますのでご覧ください。

○本号では復興教育の取組を盛岡地区・気仙地区から、地区校長会の研究活動について胆江地区から貴重な実践報告をいただきました。また、七月の東北連小研究協議会青森大会の分科会報告を各地区からいただきました。ご多用の中ご執筆賜りました先生方に心より感謝申し上げます。

（担当）中村 雅彦